

令和 7 年度福島県農業総合センター農業短期大学校学校関係者からの御意見等

点項目	
1	農業の担い手を目指す学生等の確保 ① 県内外の高校等連携した学生の確保 ② 地域に開かれた大学校 ③ 機会を捉えた学校情報の発信 ④ 新施設の紹介による訴求
	【改善に向けた助言等】 ・農業高校以外にもアピール等を行う。 ・教育の質、レベルを上げることで、意欲ある生徒が集まるのではないかな。 ・簿記検定等、資格取得を前面に PR し、学生確保に利用してはどうか。 ・少子化が進む中で、一定数学生を確保していることは評価できる。 ・これまでのように全日制、とりわけ農業高校を中心とした定員確保から、幅広い募集にシフトしていく必要があるのではないかな。 ・高校訪問、オープンキャンパス、学校説明会・見学等による貴校の紹介と入校者の勧誘は、これまでも精力的になされてきているが、今後も継続されることを期待したい。とくに、新しい施設や設備は高校生などに興味を持ってもらえ、魅力があると思われます。先進的、先鋭的な取り組みと教育をしていることを強調されると良い。
2	質の高い実践的教育の提供と学習環境の充実 ① 教育内容や施設の充実 ② 各種免許、資格取得の推進 ③ 学生の主体的な取組による G A P 等の定着 ④ 新施設を活用したスマート農業の推進 ⑤ 農業経営力の育成 ⑥ 教職員の指導力の向上 ⑦ 地元大学等との連携推進 ⑧ 学生指導の改善
	【改善に向けた助言等】 ・資格取得のためのカリキュラムを増やしてはどうか。 ・多様な学生を受け入れなければならないのは、どの高校や大学でも同じです。学生の実態に合わせた教育、指導方法の転換が必要だと感じる。 ・高評価を得た新科目「福島の農業」は、一般への波及効果も期待できる優良なコンテンツである。本講座を核とした関連講座の開設やリモート開放を進めることは、教育のさらなる拡充へとつながる。また、社会的要請の高い「鳥獣害対策」も時機を得た授業であり、同様にプログラムの拡大や発展を検討する余地が大きい。 ・指導力向上に関する研修機会は、今年度同様に継続してほしい。 ・今後もカウンセラーの配置および相談体制のさらなる充実を図るべきである。
3	本県農業の復興を支える多様な担い手の育成 ① 本県農業の復興を担う新規就農者の育成と進路指導の強化 ② 農業関連産業に関する情報収集の強化 ③ ハーワーク等、就職支援専門家集団との連携強化 ④ 農業者のニーズに応じた研修プログラムの提供
	【改善に向けた助言等】 ・起業のひとつとして農業が選択されるようなサポートをしていく必要がある。 ・基幹的農業従事者数を増やすためには、経営者を増やし従業員を確保することを目指すべき。貴校では経営者の育成を図ってほしい。 ・新規就農において農業法人の活用は有力な選択肢であるが、実際に求人を出せる法人が少ないのが現状である。この雇用の受け皿不足は教育機関の努力だけで解

決できる問題ではなく、農業分野における構造的な課題として捉える必要がある。

- ・貴学の学生の就農への取り組みは多様に実施されている。今後も継続されることにより、復興を支える多様な担い手育成につながることを期待される。
- ・魅力ある研修制度として、今後もニーズに応じた継続的な実施を期待したい。

【その他の御意見等】

- ・貴校の先生方、職員の皆様のご尽力と努力に敬意を表します。過重勤務になっていないか心配でもあります。
- ・最新の施設設備が「売り」となり注目を集める一方で、入学者の充足や進路実現、日々の充実した教育の実施などにより、現場の負担が大幅に増加していることが推察される。
- ・今後、可能であれば、他の学校関係、県の部署等との連携による事業実施（研修、講義など）も有効ではないかと考えられる。